

アイヌ施策推進地域計画 中間目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	中間目標年度
標津町	標津町アイヌ施策推進地域計画	令和3年度末（最終令和5年度末）

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における中間目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B/A	備考
①出土品の同定数等 同定数について、5 か年計 100 点	100	318	318%	
②アイヌ文化教室の参加人数 参加者数の着実な増加、5 か年で 100 人	100	13	13%	
③アイヌ文様ラッピング車輛の利用者数 年間利用者について、安定的に 27,000 人を目指す	27,000	17,108	63%	
④ポー川史跡自然公園の来場者数 年間来場者について、安定的に 5,000 人を目指す	5,000	2,204	44%	
⑤サーモン科学館の来場者数 年間来場者について、安定的に 50,000 人を目指す	50,000	25,732	51%	
⑥アイヌ生活館の利用者数 年間利用者 1,000 人規模(R3 は 1,020 人)を目指す	1,020	504	49%	

アイヌ施策推進地域計画における中間目標	達成状況	備考
①出土品の同定数等 (遺跡群学術調査及び文化財保存活用等検討事業)	計画策定時に想定したよりも細かな出土品を同定する方法を採ったこと、優先的に調査を予定していた出土品の調査をほぼ完了したことで達成率 310%と目標を上回っている。 これにより文化財の価値の明確化や文化財保存計画素案策定が完了するなど、関連施策の推進に寄与した。	
②アイヌ文化教室の参加人数 (アイヌ文化理解促進関係事業)	コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、目標5か年 100 人の達成率は 13%となっているが、開催時には、単に刺繍体験のみとせず、アイヌの歴史文化学習を取り入れたことで理解促進が図られ、参加者からは「友人を誘ってまた参加したい」などの意見が寄せられたことから引き続き事業進行していきたい。	
③アイヌ文様ラッピング車輛の利用者数 (アイヌ文様ラッピングバス整備事業) (アイヌ文様ラッピングワゴン整備事業) (アイヌ文様ラッピング車輛総合交通事業)	事業の性質から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、達成率 63%にとどまっている。感染症等の状況に依るところが大きいものの、安全対策を講じるなどしながら引き続き地域交通基盤を強化する取り組みとして推進したい。	

④ポー川史跡自然公園の 来場者数 (アイヌ文化観光ルート及びメ ニュー構築事業) (アイヌ文化財展示用レプリ カ等制作活用事業) (観光施設等整備事業)	集客施設ということで人流減少や長期の臨時休館などコロナウイ ルス感染症の影響を大きく受け、達成率44%となっている。R3 に リニューアルしたサーモン科学館における関連文化財展示等によ るポー川公園への誘客案内効果への期待もあり、感染対策等を 図りながら目標達成に向け引き続き事業進行する。	
⑤サーモン科学館の 来場者数 (アイヌ文化観光ルート及びメ ニュー構築事業) (アイヌ文化財展示用レプリ カ等制作活用事業) (観光施設等整備事業)	集客施設ということで人流減少や長期の臨時休館などコロナウイ ルス感染症の影響を大きく受け、達成率51%となっている。R3 に サーモン科学館 2 階展示を「鮭の聖地」を基軸としたアイヌの歴 史文化等を発信する『日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルー ム』としてリニューアルしたことや感染症対策を講じるなど、目標 達成に向け引き続き事業進行する。	
⑥アイヌ生活館の利用者数 (茶志骨生活館建替え事業)	コロナウイルス感染症の影響によるコミュニティ活動の停滞により 達成率 49%となっている。 また、仮に新型コロナウイルス感染症が収束したとしても生活様 態自体がシフトしている中、特に年配者の寄り合いなどがコロナ 以前のように開催されるか不明であるなど、感染症等の状況に依 るところが大きいことから目標値の見直しを検討。 しかしながら、令和 5 年度に茶志骨地区生活館の建て替えを計 画しているこのタイミングでは、下方修正が妥当な対応とはいえ ないことから、引き続き活発な利用を促進すべく現行目標値を維 持する。	

(コメント)

全体として、コロナウイルス感染症の影響を受ける事業は停滞傾向、これ以外は予定どおり、もしくはコロナ
影響による事業中止分に代わり前倒し実施するなど、予定よりも進行している傾向といえる。
文化財の保存活用計画が固まり、取組みの方針が明確になったことで、推進すべき事業の整理等も進
み、アイヌ推進計画もより適切に管理できる体制が整っている。

2. 中間目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
【アイヌ文化の保存又は継承に資する事業】 (KPI) 出土品の同定数 5 か年計 100 点 ～達成率 310%	標津町
事業の効果	
遺跡群学術調査及び文化財保存活用等検討事業 ・文化財の価値の明確化や文化財保存計画素案策定が完了するなど、KPI 設定事業のみならず計画関連施策の推進に寄与した。 ・標津遺跡群はアイヌ文化形成史を語る上で欠くことのできない遺跡であり、これまでの調査成果や今後の調査成果に基づいて内外に発信できるようその価値を整理することは有意義である。 ・アイヌ政策交付金の活用により、歴史文化の深堀りやこれらを活用した地域産業振興などバランスよく進められており、一般の人にも解りやすい情報発信の推進が図られている。	

事業の進捗状況	事業実施主体
【アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業】 (KPI) アイヌ文化教室の参加人数着実な増加(5 か年 100 人) ～達成率 13%	標津町
事業の効果	
アイヌ文化理解促進関係事業 R1 はコロナウイルス感染症の影響により KPI 設定事業の全てを中止したが、R2 は回数を減少し 1 回の開催、R3 は全て中止の措置をとった。 このため目標達成率は 13%にとどまっているが、R2 開催時には、単に刺繍体験のみとせず、アイヌ文化におけるデザインや色の意味などがレクチャーされたことでアイヌ文化に対する理解や興味関心が図られ、参加者からは「また開催してほしい」「次回は友人を誘いたい」「もう少し難しいデザインにも挑戦してみたい」などの意見が寄せられたことから、計画残り期間において安定的に開催できれば効果は期待できることから、引き続き開催を検討していきたい。 また、KPI 設定以外の事業では、アイヌをテーマにしたミュージカル公演、町内文化財を巡るウォーキングイベントなどを開催し、アイヌ文化を含めた町内の歴史文化に触れる機会を創出、ふるさと教育、シビックプライドの醸成に寄与した。	

事業の進捗状況	事業実施主体
【観光の振興その他の産業の振興に資する事業】 (KPI) アイヌ文様車輛の年間利用者 27,000 人 ～達成率 63% (KPI) ポー川史跡自然公園の年間来場者 5,000 人 ～達成率 44% (KPI) サーモン科学館の年間来場者 50,000 人 ～達成率 51%	標津町
事業の効果	
アイヌ文様ラッピングバス整備事業、アイヌ文様ラッピングワゴン整備事業、アイヌ文様ラッピング車輛総合交通事業 誘客、交流人口の拡大をめざすための事業が多い性質のためコロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。交通事業は感染症の状況に依るところが大きく利用数は停滞しているものの、アイヌ交付金の活用により安定的な運営及び日常的にアイヌ文様を目にする機会が創出されており、引き続きアイヌ文化の普及および地域交通基盤を強化する取り組みとして推進したい。	
アイヌ文化観光ルート及びメニュー構築事業、観光施設等整備事業 ポー川史跡自然公園とサーモン科学館は集客施設であるためコロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。人流減少や長期の臨時休館など、R2 に続き R3 もその影響が顕著に表れたものとなった。 好材料としては、アイヌ交付金を活用し R3 にサーモン科学館 2 階展示を「鮭の聖地」を基軸としたアイヌの歴史文化等を発信する『日本遺産「鮭の聖地」エキシビジョンルーム』としてリニューアルしたこと、当該コーナーにおいてポー川への誘客案内効果が発揮されることへの期待もあることから、それぞれ感染対策等の措置を講じながら一層の活性化を図るため引き続き推進していく。	
アイヌ文化財展示用レプリカ等制作活用事業 この他、文化振興事業で整備した出土品や文化財、高精度のレプリカなども活用しながら、各施設や町内に点在する文化財等の魅力のより一層の向上、活用を推進していく。	

事業の進捗状況	事業実施主体
【地域内及び地域間の交流並びに国際交流の促進に資する事業】 (KPI) 利用の活性化(年間 1,000 人規模:R3 は 1,020 人目標) ～達成率 49%	標津町
事業の効果	
茶志骨生活館建替え事業 コロナウイルス感染症の影響からコミュニティ活動自体が停滞している。生活館の利用については特に年配者が多いことも影響していると考えられる。 また、仮に新型コロナウイルス感染症が収束したとしても生活様態自体がシフトしている中、特に年配者の寄り合いなどがコロナ以前のように開催されるか不明であるなど、感染症等の状況に依るところが大きいことから目標値の見直しについて検討したところであるが、令和 5 年度に茶志骨地区生活館の建て替えを計画しているこのタイミングでは、下方修正が妥当な対応とは考えづらく、現行目標値を維持したうえで引き続き活発な利用を促進していきたい。	

3. 今後の方針等

(コメント)

進捗状況としてはコロナウイルス感染症の影響を受けているところであるが、「1.目標の達成状況」のコメント欄に記載のとおり、停滞しているものと、感染症の影響を受けないため前倒し実施しているものがあり、必ずしも計画全体の進行に遅れが生じているわけではなく、取り組み方針の整理と適切な計画管理に努めて引き続き推進していく。

文化振興事業で整理された歴史資料や文化財が地域産業振興にも活用できおり、また地域産業を振興することで歴史文化の普及にフィードバックされるなど、相乗効果のある取り組みとなっている。

今後については、これまでの取り組みで整備された日本遺産「鮭の聖地」の物語を基軸に推進することで、アイヌの歴史文化が文化振興・地域産業振興、また、文化財の保存、再生の面においても効果的に推進されと考えられる。